

主な出来事

【内政】

- 新大統領の就任
- 新副大統領の任命及び閣僚人事の発表
- モチュディ東地区国会議員補欠選挙で野党連合勝利

【外政】

- マシシ大統領のナミビア、ジンバブエ、アンゴラ、ザンビア、南ア、モザンビーク及びレソト訪問
- SADCダブル・トロイカ首脳会合の開催

【経済】

- ルカラ・ダイヤモンド社、472カラットのダイヤモンドを発見
- Tati Nickel Mining 社の暫定的清算の取り消し判決
- 公務員給与の賃上げ

【文化】

- 日本、ボツワナソフトボール協会を支援

【内政】

○ 新大統領の就任

1日、国民議会議事堂内にて大統領就任式典が挙行政され、マシシ副大統領がボツワナ共和国第5代大統領に就任した(当館注:日本から新藤総理特使が参列、マシシ新大統領と会談し総理親書を手交した)。(4日:デイリー・ニュース紙)

○ 新副大統領の任命及び閣僚人事の発表

4日、マシシ新大統領はツォフワネ元地方自治開発大臣を新副大統領に指名し、議会はこれを承認。併せて大統領による閣僚人事が発表された。(5日:デイリー・ニュース紙)

○ 野党、マシシ大統領の権力の正当性に憲法上の疑義を表明

野党ボツワナ議会党(BCP)は、ココルウェ国民議会議長に書簡を送付し、マシシ大統領の権力の正当性に憲法上の疑義を表明した。同書簡では、カーマ大統領の任期満了に伴う副大統領の大統領への自動昇格に関し、選挙による国民の信任があるまで大統領としての権限は制限されるとの憲法解釈を示した。(13日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ モチュディ東地区国会議員補欠選挙で野党連合勝利

21日、モチュディ東地区の国会議員補欠選挙が実施され、野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」から出馬のモレバツィ候補が4402票を獲得し勝利を収めた。与党ボツワナ民主党(BDP)候補は3284票、無所属候補は130票、無効票は76票であった。(23日:デイリー・ニュース紙, モニター紙)

○ **ボツワナ国防軍戦闘機, 墜落事故**

27日, ボツワナ国防軍所属のBF5戦闘機がハボロネ・ゴルフ場に墜落し, パイロット1名が死亡した。墜落した戦闘機は翌日のボツワナ国防軍創設41周年記念式典でのデモンストレーションに向け予行演習を実施していた。(30日:デイリー・ニュース紙)

【外政】

○ **マシシ大統領, ナミビアを訪問**

9日, マシシ大統領はナミビアを訪問し, ガインゴブ大統領との首脳会談を行った。会談ではマシシ大統領からトランス・カラハリ回廊計画実現に向けた意欲とナミビアから提供されたドライポートへの感謝の意が表された他, 両首脳間でナミビア難民の本国帰還に向けた取り組みが確認された。(10日:デイリー・ニュース紙)

○ **マシシ大統領, ジンバブエを訪問**

10日, マシシ大統領はジンバブエを訪問し, ムナンガグワ大統領との首脳会談を行った。首脳会談では, 年内にマシシ大統領がジンバブエを国賓訪問し二国間合同委員会を開催する旨約束された。同訪問にはカティ司法国防大臣, セレツェ外務国際協力大臣, モカイラ運輸通信大臣等が随行した。(11日:デイリー・ニュース紙)

○ **マシシ大統領, アンゴラを訪問**

12日, マシシ大統領はアンゴラを訪問し, ロウレンソ大統領と首脳会談を行い, オカバンゴ川の水資源保護等につき協議した。本訪問には, セレツェ外務国際協力大臣, モラレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣, モカイラ運輸通信大臣が随行した。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ **マシシ大統領, ザンビアを訪問**

12日, マシシ大統領はザンビアを訪問し, ルング大統領との首脳会談を行った。ルング大統領は, マシシ大統領を今年ザンビアで開催される産業見本市へ招待し, マシシ大統領はこれを歓迎した。本訪問には, セレツェ外務国際協力大臣, モラレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣, モカイラ運輸通信大臣, バロピ・ボツワナ民主党(BDP)事務局長, マジャハ議員が随行した。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ **マシシ大統領, 南アを訪問**

13日, マシシ大統領は南アを訪問し, ラマポーザ大統領と首脳会談を行い, 電力・水供給, 気候変動対策, 動植物疫病(口蹄疫), 貿易(貿易不均衡)等につき協議した。本訪問には, セレツェ外務国際協力大臣, ラロツィア農業開発・食料安全保障大臣, バツ元国家・移民・ジェンダー大臣,

バロピBDP事務局長が随行した他、ネオ・マシシ大統領夫人が同伴した。(16日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, モザンビークを訪問

16日, マシシ大統領はモザンビークを訪問し, ニュシ大統領と首脳会談を行い, 農業, エネルギー, 観光, 運輸の他, SADC・アフリカ大陸における課題等につき協議した。本訪問には, モラレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣及びモカイラ運輸通信大臣が随行した。(17, 18日:デイリー・ニュース紙)

○ EUのOKACOMIに対する支援

18日, EUとオカバンゴ川流域水委員会(OKACOM:Permanent Okavango River Basin Water Commision)はオカバンゴ流域の自然保護に係る165万ユーロの無償資金協力に係る契約を締結した。(20日:デイリー・ニュース, メヒ紙他)

○ マシシ大統領, 英連邦首脳会議へ出席

19~20日, マシシ大統領はロンドンで開催された英連邦首脳会議に出席した。マシシ大統領はエリザベス女王, メイ首相と面会した他, 外遊中に各種セミナーの基調講演や英国在留ボツワナ人との懇談を行った。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ SADCダブル・トロイカ首脳会合の開催

24日, SADCダブル・トロイカ首脳会合がアンゴラの首都ルアンダで開催された。同会合では, レソトにおける国内対話とSADC予防ミッション派遣, コンゴ(民)における12月大統領選挙の日程遵守要請とSADC駐在事務所開設, マダガスカルにおける政治・治安上の緊張の高まりを受けたSADC特使緊急派遣等が協議・決定された。(20日:デイリー・ニュース紙, 24日:SADCホームページ)

○ マシシ大統領, レソトを訪問

30日, マシシ大統領はレソトを訪問し, レツイエ三世国王, タバネ首相と会談を行い, 年内にボツワナで合同常設協力委員会(JPCC)を開催することが確認された。また, タバネ首相との会談では, 次期全アフリカ議会事務総長選挙に立候補するブタレ博士を紹介し, 同首相からの支持を取り付けた。(30日, 5月2日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

1)経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2017年第4四半期の経済成長率は, 前期比3.4%(2017年第3四半期の経済成長率は, 前

期比4.7%)。

2)インフレ率(出典:ボツワナ銀行)

2018年3月は2.8%(2月は3.2%)。

3)為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年4月30日

1プラ=0.099米ドル

1プラ=1.212南ア・ランド

1プラ=10.94円

2018年3月29日

1プラ=0.102米ドル

1プラ=1.188南ア・ランド

1プラ=10.96円

○ ダイヤモンド産業

1)ルカラ・ダイヤモンド社、472カラットのダイヤモンドを発見

ルカラ・ダイヤモンド社(カナダ)は、同社が所有するカロウェ・ダイヤモンド鉱山から472カラットのダイヤモンドを発見した。472カラットのダイヤモンドは、これまでカロウェ・ダイヤモンド鉱山で発見されたダイヤモンドの中で三番目の大きさとなった。(14日:ウイークエンド・ポスト紙)

2)デビアス社、第3期ダイヤモンド原石販売会で5億2000万ドルの売上を記録

デビアス社の2018年第3期におけるダイヤモンド原石の売上は5億2000万米ドルを記録し、同売上は昨年同時期の売上5億8600万米ドルに比べ減少した。クリーバー・デビアス社 CEO は、第3期のダイヤモンド原石販売会におけるダイヤモンド原石の需要が引き続き好調である旨発言した。(20日:ボツワナ・ガーディアン紙)

3)ハボロネで新たなダイヤモンド工場が操業開始

M Suresh グループ(印)は、ハボロネにおいてダイヤモンド研磨工場の操業を開始した。2016年にボツワナでの操業を開始した同社は現在148名を雇用しており、その内110名はボツワナ国籍保持者。(20日:メヒ紙)

4)デビアス社、第1四半期のダイヤモンド原石生産量15%上昇

デビアス社の2018年第1四半期におけるダイヤモンド原石の生産量は850万カラットを記録し、同生産量は昨年同時期の740万カラットに比べ15%上昇した。(28日:ウイークエンド・ポスト紙)

5)ルカラ・ダイヤモンド社、特別入札を6月に開催

ルカラ・ダイヤモンド社は2018年6月に472カラット及び327カラットのダイヤモンドを含むダイヤモンドの特別入札を行う予定。同入札は、今年初めからカロウェ・ダイヤモンド鉱山において、1

00カラット以上のダイヤモンドが8つ発見されたことを受けて開催されるもの。(30日:モニター紙)

○ エネルギー・資源

1) 3社が Tati Nickel Mining 社の購入に関心

2016年10月に閉鎖し清算中の BCL 社グループの子会社である Tati Nickel Mining 社(暫定清算中)の購入に3社が提案書を提出していることが判明した。Tati Nickel Mining 社の清算人によると、3社の内、1社は国際的に鉱業に関わる有名企業であり、他2社も知名度も高い国際的な企業である由。今後、提案書の評価をした後に1社と売買に係る交渉を行う予定。(6日:メヒ紙)

2) Tati Nickel Mining 社の暫定的清算の取り消し判決

10日、高等裁判所は暫定清算中の Tati Nickel Mining 社の清算を取り消す判決を下した。同社の清算人は少なくとも2社以上の可能性のある提案を最終決定するのに6か月間の期間が必要であるとして暫定清算の延長を求めていたが、高等裁判所のケボナン裁判官は暫定清算の仮決定を取り消した。同決定により、Tati Nickel Mining 社は主要株主であるボツワナ政府に返却されることになるが、同社の役員、従業員はいないにもかかわらず、10億プラの負債を BCL 社に対して引き続き負うことになる。同決定を受けて、清算人は11日までに高等裁判所の決定の差し止めを上訴裁判所に申請した。(13日:メヒ紙)

○ 公務員給与の賃上げ

大統領府公務員管理局は、インフレ率の上昇を受けて2018年4月1日から公務員給与を3%引き上げる旨発表した。(6日:デイリー・ニュース紙)

○ オンライン法人登記システムの開始予定

ボツワナは、企業・知的財産局を通じて、オンライン法人登記システムを年末までに開始する予定。同システムの運用はボツワナが各国の企業登記に携わる機関で構成される企業登録フォーラム(CRF: Corporate Registers Forum)の加盟国としての恩恵を受ける形で実施される。(14日:ウィークエンド・ポスト紙)

【文化】

○ ボツワナ・オープン大学、Huawei社とICT分野で協力

ボツワナ・オープン大学でHuawei社公認情報ネットワークアカデミー(HAINA)の開始を記念する式典が開催された。ボツワナ・オープン大学のヤングマン教授によると、Huawei社との協力により、学生は企業基準のシミュレーション・ツール、最新の技術、機器及びHuaweiのEラーニングシステムを利用することができる。(11日:デイリー・ニュース紙)

○ 日本, ボツワナソフトボール協会を支援

平成 28 年度草の根文化無償資金協力「ソフトボール球技場及び器材整備計画」の引渡式が開催された。日本大使館はボツワナソフトボール協会に対して、「Sport for Tomorrow」の一環として国立ソフトボール競技場の芝の維持管理に必要な灌漑設備の整備及びソフトボール用具の調達に係る支援を行った。同引渡式の中で、竹田大使は本計画がボツワナのソフトボール選手の技術の向上に貢献し、また、女子ソフトボールチームボツワナ代表が2020年東京オリンピックに出場することを期待する旨発言した(27日:ガーディアン紙, デイリー・ニュース紙)